



震災からの復旧・復興計画や人材確保の戦略などについて議論された座談会(会場:熊本ホテルキャッスル11階「トゥールード シャトー」)

申し上げた特区になれば、仮設住宅を有効に活用できるのではないかと思います。現在、震災による被災者が仮設住宅で生活をされており、入居は原則2年間で終了となっていますが、2年で取り壊すのはもったいないので、仮設住宅の場所を外国人労働者の住まいに転

用できればといった感じで、いろんな議論を交わす必要があるのではないのでしょうか。

いずれにしましても今、若い人たちの県外流出が増えています。県および熊本市が若い人たちにとって魅力的な自治体であるということが、基本的には人

材の流出を防ぐことにつながると思います。商工会議所としてもあの手この手を使って、県や熊本市と連携し、全力で人手不足の問題を改善していきたいと考えていますので、ぜひ、国の方にも訴えていただければありがたいですね。

将来に負担かけない創造的復興が使命 蒲島知事

松岡 熊本の復興に関連した話題として、熊本-阿蘇間におけるアクセスの打開策についてです。今夏には長陽大橋が復旧し供用開始の予定です。これで交通渋滞などが、だいぶ緩和されると思いますが、阿蘇大橋を復旧しないと、海外

からの外国人観光客の誘致や熊本と阿蘇間の交流も思うようにはいかないでしょう。この点についてはいかがですか。

蒲島 熊本の観光業への影響は大きいですが、国土交通省や施工業者の方々が本当に頑張って下さったと思いま

す。まずは俵山トンネルルートが昨年末、また阿蘇長陽大橋ルートを含む村道栃の木～立野線が今夏に開通するほか、2020年度までに国道57号の代替ルートが開通します。時間的に復旧は早期に進んでおり、ミルクロード、グリーンロード、